

こんにちは!

村立東海病院



手術室を見てみよう!



皆さんは手術室に入ったことがありますか? そして、手術室について、どれくらいの知識をお持ちですか? 最近はテレビドラマなどで、かなりリアルな手術シーンを映し出していますので、よく見慣れた手術機器もあるかもしれません。

手術室で大切なことは、まず専門的な知識や技術を持った医師・看護師がそろっていることですが、「患者さんが安全に手術を受けられるような環境を整備する」ことも、とても大切です。そのためには感染防止が十分に行われていることや、必要な物品が整備されていることなどが重要になります。手術に必要な物品としては電気メスや麻酔機器などの手術機器を思い浮かべる方が多いと思いますが、今回は、手術室の設備に注目してみましよう。

●感染を防ぐための「空調システム」

手術室の独特な設備の一つとして、空調システムがあります。感染防止が十分に行われていることが重要だと書きましたが、術後感染を防止する上で、手術を受けている患者さんが雑菌を含んだ空気に触れることがないようにすることも、一つの感染防止対策となります。そのため、当院も含め多くの病院の手術室は、空調システムによって手術室の空気圧を手術室の外側の部屋よりも高く維持(陽圧)しています。高性能フィルターを通してたくさんのクリーンな外気を取り込み、空気の流れが手術室から外に向かうようにしているのです。また、空気感染性疾患の患者さんが手術を受ける場合など、反対に陰圧となる設備を備えた病院もあります。

●スムーズな手術のための「シーリングペンダントシステム」

もう一つの独特な設備が、シーリングペンダントシステムです。これは、医用電源・医療ガス・各種情報ジャックなどの必要設備を、任意の位置から供給することができる天井懸垂式アームシステムです。手術の際は電気メスなど多くの医療機器が使用されるため、各医療機器の電源ケーブルを電源差し込み口につなぐ必要があります。この電源差し込み口は、手術室内の壁面に設置されていることが多いのですが、この電源差し込み口を天井からぶら下げた機器に設け、さらに医療ガスの接続口やモニターなども集約させたのが、このシステムです。



手術に入る医師や看護師は、ゴーグルやマスク、防護衣等を着用するため、常に視野が狭い中で手術を行います。そのため、電源ケーブル等が床に散乱していると、足を引っ掛けて手術機器を倒してしまう危険性があります。また、電源ケーブル等を踏んでしまうことでケーブルが断線し、機器の故障の原因になることもあります。このようなトラブルを回避することも、シーリングペンダントシステム導入の目的の一つとなっています。

●大切なのは「職員の心配り」です!

設備を備えることによる手術室の環境整備について説明しましたが、病院職員の手で環境整備を行っていることも少なくありません。例えば、手術室の入口や患者さんの移動経路に、なるべく物を置かないようにしたり、手術機器などを決められた場所に収納することで、必要なときに速やかに準備をして、円滑に手術が行えるように整理したりすることを、病院職員は日ごろから心掛けて行動しています。

これからも「患者さんにより安全に、安心して手術を受けてもらうためにはどうしたら良いか」ということを常に考えながら、より良い手術室の環境づくりに取り組んでいきます。

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、保健年金課地域医療担当(☎287-0899)